

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|----------|--|-------------------|-----|------|----|------|----|
| 科目コード | 21106 | 区分 | 専門基礎科目 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | | | |
| 授業科目名 | 保育原理 | 担当者名 | 中原 朋生 | ○ | | | | | |
| | | 実務経験との関連 | 総合医療福祉施設付属福祉職員養成機関の専任教員及び指導員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 | | | | | | |
| 配当年次 | 1年 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

保育原理は東岡山IPUこども園の実際の観察を導入しつつ「保育の基本」「発達過程に応じた保育」「保育所保育指針の考え方」「保育の歴史と思想」「保育職務の全体像」について学習し保育者に必要となる見方・考え方の基礎を培う。

<授業の到達目標>

本授業の終了後、学生は「保育の基本」「発達過程に応じた保育」「保育所保育指針の考え方」「保育の歴史と思想」「保育職務の全体像」に関する見方・考え方を使用して、保育実践、子どもの実態、保育制度の現状を説明できるようになる。

<授業の方法>

講義では、保育原理に関するワークシート、教科書、パワーポイントを使用する。学生が保育を観察する視点や概念を習得するための講義45分程度、こども園における観察、グループ討議、発表を45分程度を組み合わせた講義を展開する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習を含む）で完成させるワークシート（30%）、双方向学習の取り組み状況（30%）、最終レポート試験（40%）。ワークシート、最終レポート試験は、Aキーワード（授業で講義した見方・考え方）、B論理性（文章の構成）、Cオリジナリティー（自分自身の意見）の3つの観点から採点し、改善の方向性を学生に示すことで、フィードバックする。

<教科書>

池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生編著（2016年4月5日）

『改訂 なぜからはじめる保育原理』

建帛社

厚生労働省（2018年2月）

『保育所保育指針解説』

フレーベル館

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|---------------------------|--|
| 1 | 保育の基礎（1）保育の理念と概念 | 保育と人間形成、養護、教育、養護と教育の一体化、子どもの最善の利益 |
| 2 | 保育の基礎（2）保育対象としての子ども | 子どものイメージ、子どもの法的定義、子ども理解の方法 |
| 3 | 保育の基礎（3）福祉としての保育 | 敗戦と戦災孤児、児童福祉法の成立、保育所と幼稚園の起源、 |
| 4 | 保育の基礎（4）保育所保育の制度 | 児童福祉法における保育所と保育士の位置づけ、データでみる保育所、保育所の現代的ニーズ |
| 5 | 発達過程に応じた保育（1） | 発達過程、発達課題、愛着理論 |
| 6 | 発達過程に応じた保育（2） | 発達の最近接領域、遊びの発達 |
| 7 | 保育所保育指針の考え方（1）保育所保育の基本原則 | 保育所の役割、保育の目標、保育の方法、保育の環境、保育所の社会的責任 |
| 8 | 保育所保育指針の考え方（2）養護に関する基礎事項 | 養護の理念、生命の保持、情緒の安定、ねらいと内容 |
| 9 | 保育所保育指針の考え方（3）保育の計画及び評価 | 全体的な計画の作成、指導計画の作成、保育内容の評価 |
| 10 | 保育所保育指針の考え方（4）幼児教育施設の共有事項 | 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、幼稚園教育要領 |
| 11 | 保育所保育指針の考え方（5）保育のねらいと内容 | 乳児保育の3領域、5領域の考え方 |
| 12 | 保育の歴史と思想（1）子どもの発見 | 子どもの発見、アリエス、ルソーの保育思想、消極教育 |
| 13 | 保育の歴史と思想（2）近代保育思想 | フレーベル、幼稚園、恩物、児童神性論 |
| 14 | 保育の歴史と思想（3）日本の保育史 | 保育所の歴史、幼稚園の歴史、倉橋惣三、城戸幡太郎 |
| 15 | 保育職務の全体像 | 保育者の労働環境、保育者の在職と離職、保育職務 |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|----------|--|-----|-----|-------------------|-------|------|----|
| 科目コード | 21400 | 区分 | 専門基礎科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 器楽演習Ⅰ [FC2421] | 担当者名 | 高崎 展好／宮原 舞 | | | ○ | | | |
| | | 実務経験との関連 | 担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 | | | | | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 講義・演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること（教職の手引き「教育実習履修内規より」）

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身に付ける。③歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。④ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月）

わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた

環太平洋大学

坪野春枝 著（発行2021年3月15日）

最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】*応用問題*解答付

有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------|--|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方の確認歌唱指導 |
| 2 | 楽譜の仕組み1 | 発声、リズム学習、歌唱指導譜表 |
| 3 | 楽譜の仕組み2 | 発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符 |
| 4 | 楽譜の仕組み3 | 発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏 |
| 5 | 楽譜の仕組み4 | 発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏 |
| 6 | 楽譜の仕組み5 | 発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号 |
| 7 | 楽譜の仕組み6 | 発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏 |
| 8 | 楽典と演習1 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちようちょう」 |
| 9 | 楽典と演習2 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」 |
| 10 | 楽典と演習3 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶんぶん」 |
| 11 | 楽典と演習4 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」 |
| 12 | 楽典と演習5 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」 |
| 13 | 楽典と演習6 | 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」 |
| 14 | 楽典と演習7 | 音楽理論の復習及び、確認テスト |
| 15 | 総括・試験 | 模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|----------|--|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 21401 | | 区 分 | 専門基礎科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 器楽演習Ⅱ [A] | | 担当者名 | 高崎 展好／宮原 舞 | | | ○ | | |
| | | | 実務経験との関連 | 担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 | | | | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

この授業を通してピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノを中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける演習科目である。器楽演習Ⅰの内容を発展させた器楽演奏能力（ピアノ）を身につける。

<授業の到達目標>

1. 小学校共通教材の6年生までの曲を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。2. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）

教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー

ヤマハミュージックメディア

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------|----------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要と課題の説明 |
| 2 | 虫の声 | 虫の声を使った弾き歌い |
| 3 | 茶つみ | 茶つみを使った弾き歌い |
| 4 | ふじ山 | ふじ山を使った弾き歌い |
| 5 | 春の小川 | 春の小川を使った弾き歌い |
| 6 | とんび | とんびを使った弾き歌い |
| 7 | まきばの朝 | まきばの朝を使った弾き歌い |
| 8 | もみじ | もみじを使った弾き歌い |
| 9 | こいのぼり | こいのぼりを使った弾き歌い |
| 10 | スキーの歌 | スキーの歌を使った弾き歌い |
| 11 | 冬げしき | 冬げしきを使った弾き歌い |
| 12 | おぼろ月夜 | おぼろ月夜を使った弾き歌い |
| 13 | ふるさと | ふるさとを使った弾き歌い |
| 14 | われは海の子 | われは海の子を使った弾き歌い |
| 15 | 総括 | 試験曲の確認、レッスン |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------|----------|--|-----|-----|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 34210 | 区 分 | コア | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 子どもの理解と援助 | 担当者名 | 大久保 諒 | | | ○ | | | |
| | | 実務経験との関連 | スクールカウンセラーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 | | | | | | |
| 配当年次 | 2年 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

本科目では、子どもの発達に関する様々な知見を踏まえ、それに基づいた子どもや保護者の理解と援助の在り方を演習形式で学ぶ。第1回に授業の目的や性質を学ぶ。第2回から第5回までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について学ぶ。第6回から第10回までは「子どもを理解する視点」について学ぶ。第11回から第12回までは「子どもを理解する方法」について学ぶ。第13回から第15回までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。② 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

特になし

<参考書>

高嶋景子・砂上史子（編著）（2019/4）
 子どもの理解と援助
 ミネルヴァ書房
 遠藤利彦（編著）（2021/6）
 情動発達の理論と支援
 金子書房

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授 業 内 容 |
|----|---------------------|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の説明、子どもの理解と支援に必要な観点 |
| 2 | 子どもの実態の理解① | 広範な個人差 |
| 3 | 子どもの実態の理解② | 生物学的背景に基づく個人差 |
| 4 | 子どもの実態の理解③ | 社会・文化的背景に基づく個人差 |
| 5 | 子どもの実態の理解④ | 個人差に配慮した共感や、保育・養護・教育 |
| 6 | 子どもの保護者の理解と支援① | 保護者と子どもの相互規定関係、保護者の持つ背景 |
| 7 | 子どもの保護者の理解と支援② | 子どもの特徴から保護者が被る影響 |
| 8 | 子どもの集団生活の理解と支援① | 子どもの安全の確保、子どもの生活習慣の確立、子どもが身に着けるルール |
| 9 | 子どもの集団生活の理解と支援② | 子どもの遊びや仲間関係を通じた経験 |
| 10 | 環境の変化 | 家庭生活と園生活の関係 |
| 11 | 子どもを理解する方法① | 子どもの観察に関する方法と記録の取り方、評価と省察 |
| 12 | 子どもを理解する方法② | 子どもの情報の収集と共有の方法（職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション） |
| 13 | 子どもの理解に基づく発達援助① | 発達の段階や個人差に応じた課題に対する援助 |
| 14 | 子どもの理解に基づく発達援助② | 特別な配慮を要する子どもや、その保護者の理解と援助 |
| 15 | 子どもの理解に基づく発達援助③、まとめ | 発達の連続性と就学への支援、授業全体の振り返り |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|----------|---|-----|-----|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 23202 | 区分 | コア | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 教育社会学 | 担当者名 | 濱嶋 幸司 | | | ○ | | | |
| | | 実務経験との関連 | 独立行政法人のアシスタントフェローとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 | | | | | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を見つけることのできる技術を養う。専門知識だけでなく、事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後の進路に役立つ機会としたい。

<授業の到達目標>

①教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解する。学校をめぐる社会的事項を理解する。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解する。近年の教育政策、教育改革を理解する。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得る。②現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解する。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解する。教育制度の諸課題の例示ができる。③学校経営の観点からの学校や教育行政機関の目的と実際を理解する。学校経営の理念を知る。学校の年間計画と学校評価の方法を理解する。学級経営仕方を理解し、教職員と学校外機関との連携を理解する。④学校と地域との連携の意義や方法を理解する。学校と地域との連携の意義や方法に関して学び、その経緯を理解する。⑤学校安全への対応を理解する。保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。過去の事例や実情を踏まえ学校の危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性についても理解する。生活安全、交通安全、災害安全及び新たな安全上の課題について、具体的な取り組みを理解する。⑥その他、教育の社会的側面の理解を深める。教育現象に対する社会学の見方を学ぶ。

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各講義で実施する課題は指示を出し（40%）、提出が早いアクションにはコメントを入れる。最終レポート（60%）の評価基準は事前に提示する。

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

<参考書>

岩永雅也（2019年）

『教育社会学概論』

放送大学出版会

中村高康・松岡亮二（2021年）

『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』

ミネルヴァ書房

高野良子・武内清編著（2024）

『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』 [第3版]

学文社

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|-------------------------|--|
| 1 | ガイダンス：教育社会学とは？ | 科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明 |
| 2 | 教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法 | 教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。 |
| 3 | 教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在 | 教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。 |
| 4 | ライフコースと教育社会学①家族と子ども | 身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。 |
| 5 | ライフコースと教育社会学②小学生・中学生 | 義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。 |
| 6 | ライフコースと教育社会学③高校生 | 高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。 |
| 7 | ライフコースと教育社会学④大学生 | 大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。 |
| 8 | ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア） | 学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明 |

| | | |
|----|---------------------------|---|
| 9 | ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア） | <p>する。</p> <p>キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。</p> |
| 10 | ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い | <p>一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。</p> |
| 11 | 教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム | <p>これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p> |
| 12 | 教育社会学の観点②教育格差とは何か | <p>経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p> |
| 13 | 教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う | <p>社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p> |
| 14 | 教育社会学の観点④教師への期待と役割 | <p>教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。</p> |
| 15 | 展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか | <p>14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどのような学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。</p> |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|----------|---|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 52006 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育実習指導 I B (施設) | | 担当者名 | 松本 好生／檜寄 日佳／酒井 健太郎／大久保 諒 | | | ○ | | |
| | | | 実務経験との関連 | 担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。 | | | | | |
| 配当年次 | 2年 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 1単位 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021)

「保育実習の手引き」

保育士養成協議会

厚生労働省

保育所保育指針（平成29年告示）

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領

フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-------------|------------------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて |
| 2 | 実習の意義と目的 | 実習の意義・目標、スケジュールについて |
| 3 | 施設の種類と内容(1) | 施設概要の学習(養護系施設)について |
| 4 | 施設の種類と内容(2) | 施設概要の学習(障害児施設)について |
| 5 | 施設の種類と内容(3) | 施設概要の学習(障害者支援施設)について |
| 6 | 実習記録(1) | 実習日誌の意義について |
| 7 | 実習記録(2) | 実習記録のポイントと方法について |
| 8 | 実習記録(3) | 実習記録のポイントと方法について |
| 9 | 実習書類作成 | 自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について |
| 10 | 実習施設の学習 | 実習施設のプロフィール調査について |
| 11 | 実習課題の設定 | 実習課題の理解と作成について |
| 12 | 事前訪問指導 | 実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について |
| 13 | 実習の実際 | 保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について |
| 14 | 実習の心構え | プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について |
| 15 | 実習事後指導とまとめ | お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について |

| | | | | | | | | | |
|-------|------------------|----------|---|-----|-----|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 52005 | 区 分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 保育実習指導 I A (保育所) | 担当者名 | 檜 岬 日佳 / 小崎 遼介 / 宮原 舞 | | | ○ | | | |
| | | 実務経験との関連 | 担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。 | | | | | | |
| 配当年次 | 2年 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 1単位 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

保育実習 I Aの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20% ※授業は全出席すること ※提出物は期限を厳守すること ※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）

保育実習の手引き

<参考書>

厚生労働省（2018）

保育所保育指針解説

フレーベル館

内閣府（2018）

認定こども園教育・保育要領解説

フレーベル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|------------------|------------------------------------|
| 1 | 実習の意義と概要、授業ルール | 授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認 |
| 2 | 実習の意義と目標 | 保育実習の意義と目標実習園希望調査 |
| 3 | 実習の流れと実習生としての心構え | 実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え |
| 4 | 保育の理解 | 保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任 |
| 5 | 指導案の作成（1） | 子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ |
| 6 | 指導案の作成（2） | 保育士の援助・配慮、作成上の留意事項 |
| 7 | 保育教材の作成（1） | シルエットクイズの作成と発表 |
| 8 | 保育教材の作成（2） | ペープサートの作成と発表 |
| 9 | 模擬保育（1） | 模擬保育と振り返り（1） |
| 10 | 模擬保育（2） | 模擬保育と振り返り（2） |
| 11 | 模擬保育（3） | 模擬保育と振り返り（3） |
| 12 | 実習前オリエンテーション | 実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法 |
| 13 | 実習日誌の書き方 | 実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習 |
| 14 | 実習までの準備 | 実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理 |
| 15 | 実習のまとめ | 自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成 |

| | | | | | | | | | |
|-------|------------|----------|---|-----|-----|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 52002 | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 保育実習Ⅱ(保育所) | 担当者名 | 檜 嵯 日佳／小崎 遼介／宮原 舞 | | | ○ | | | |
| | | 実務経験との関連 | 担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。 | | | | | | |
| 配当年次 | 3年 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2単位 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会
保育所実習の手引き

<参考書>

厚生労働省
保育所保育指針
フレーバル館
内閣府文部科学省厚生労働省
幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領
フレーバル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------|--------------------------|
| 1 | 保育実習 (1) | 実習園における事前オリエンテーション |
| 2 | 保育実習 (2) | 実習園において指導のもとに観察実習 (1) |
| 3 | 保育実習 (3) | 実習園において指導のもとに観察実習 (2) |
| 4 | 保育実習 (4) | 実習園において指導のもとに参加実習 (1) |
| 5 | 保育実習 (5) | 実習園において指導のもとに参加実習 (2) |
| 6 | 保育実習 (6) | 実習園において指導のもとに部分実習 (1) |
| 7 | 保育実習 (7) | 実習園において指導のもとに部分実習 (2) |
| 8 | 保育実習 (8) | 実習園において指導のもとに部分実習 (3) |
| 9 | 保育実習 (9) | 実習園において指導のもとに観察・参加実習 (1) |
| 10 | 保育実習 (10) | 実習園において指導のもとに半日実習 (1) |
| 11 | 保育実習 (11) | 実習園において指導のもとに観察・参加実習 (2) |
| 12 | 保育実習 (12) | 実習園において指導のもとに半日実習 (2) |
| 13 | 保育実習 (13) | 実習園において指導のもとに観察・参加実習 (3) |
| 14 | 保育実習 (14) | 実習園において指導のもとに全日実習 |
| 15 | 保育実習 (15) | 実習園における実習反省会 |

| | | | | | | | | | |
|-------|------------------|------|----------|---|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 51008 | | 区 分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 教育実習事前・事後指導(幼稚園) | | 担当者名 | 檜 寄 日佳 / 小崎 遼介 / 宮原 舞 | | | ○ | | |
| | | | 実務経験との関連 | 担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。 | | | | | |
| 配当年次 | 3年 | 配当学期 | 通年 | 単位数 | 1単位 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達の特徴、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

環太平洋大学（2023.3）
教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授 業 内 容 |
|----|----------------------|--------------------------------|
| 1 | 実習の意義と実習ルール | 実習の意義と目標、実習ルールの確認 |
| 2 | 実習の意義と目標 | 実習の意義と目標の確認 |
| 3 | 実習の段階と実習の心構え | 実習の段階と流れ、実習生としての心構え |
| 4 | 幼稚園の理解 | 幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解 |
| 5 | 指導案の作成（1） | 発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」 |
| 6 | 指導案の作成（2） | ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」 |
| 7 | 保育教材の作成（1） | 自己紹介教材の作成と発表 |
| 8 | 保育教材の作成（2） | お楽しみ会やお別れ会の準備と発表 |
| 9 | 模擬保育（1） | 模擬保育と振り返り（1） |
| 10 | 模擬保育（2） | 模擬保育と振り返り（2） |
| 11 | 模擬保育（3） | 模擬保育と振り返り（3） |
| 12 | 実習書類の作成、実習前オリエンテーション | 実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法 |
| 13 | 実習記録の書き方 | 記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察 |
| 14 | 実習までの準備 | 実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理 |
| 15 | 実習のまとめ | 自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成 |